

コミュニケーションが環境配慮行動に及ぼす影響

日中独の大学生を対象として

安藤 香織 (奈良女子大学)・安達 菜穂子 (大阪市立大学)・大沼 進 (北海道大学)

Research Question

- マス・メディアや身近な人からのコミュニケーションは省エネ行動に影響を及ぼすのだろうか
- その影響には国による違いが見られるだろうか

身近な人とのコミュニケーション

- 野波ほか (1997) パーソナル・メディア (身近な他者との会話) が行動に影響。マス・メディアの効果は限定的。
- パーソナル・メディアは情報のみでなくその行動が期待されているという規範的影響も媒介すると想定される

方法

手続き

日本、中国、ドイツの大学生を対象に、質問紙調査を実施した。

有効回答数

日本：611票、中国：184票、ドイツ：296票

質問紙

始めに、日本語で質問紙を作成した。それをもとに、その言語を母国語とするものによって中国語、ドイツ語の質問紙の作成を行った。

①行動

省エネ行動の実行度を各1項目で尋ねた。(冷暖房を効き過ぎないようにする)

②認知変数

個人的規範、主観的規範、深刻性認知、対処有効性、身近な他者とのコミュニケーションを各2項目、マス・メディアとの接触、行動統制感を1項目で尋ねた。

マス・メディアの影響

マス・メディアが環境配慮行動に及ぼす影響は限定的であるという指摘(Costanzo et al., 1986; Stern 1999)

マス・メディアよりも身近な人とのコミュニケーションの方が影響が強いだろう

文化による違い

ヨーロッパ、北米では個人の価値観を重視。日本などアジアでは他者との関係性を重視

日本、中国では主観的規範(他者からの期待)の影響が強く、ドイツでは個人的規範の影響が強く見られるだろう。

結果と考察

共分散構造分析の他母集団の同時分析によって、コミュニケーションが環境配慮行動に及ぼす影響を検討した (Figure 1)

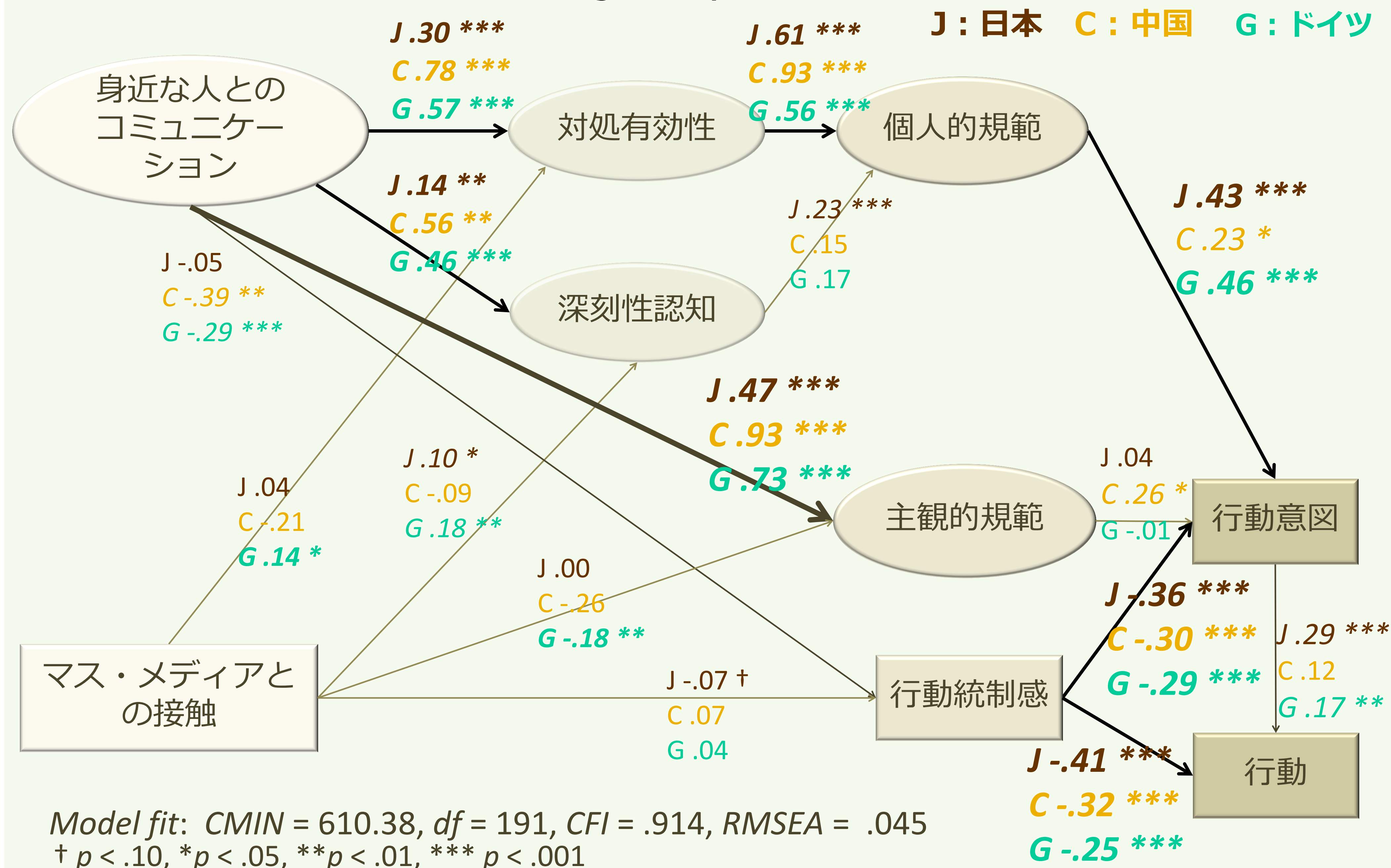


Figure 1 省エネ行動の規定因の共分散構造分析結果

コミュニケーションの影響

- 身近な人とのコミュニケーションは3カ国とも主観的規範に強い影響。深刻性認知、対処有効性認知への影響も見られた。マス・メディアからの影響は相対的に小さい。
- 身近な人とのコミュニケーションの方が影響が大きいことが、3カ国共通で見られた。
- マス・メディアは不特定多数への情報であるのに対し、身近な人からの影響は準拠集団の規範も伝達していると考えられる。



省エネ行動の規定因：文化による違い

- 個人的規範の影響は3カ国とも見られたが、日本、ドイツの方が相対的に強かった。主観的規範の影響は中国のみが有意であった。
- 東西による違いよりも、日本・ドイツの方がむしろ変数間の関連が似ている傾向にあった。ただし、行動分野によっては異なる傾向となる可能性も考えられる。
- 行動の直接の規定因としては行動統制感が最も強く、3カ国共通であった。

References

- Costanzo, M., Archer, D., Aronson, E., & Pettigrew, T. (1986) Energy conservation behavior: The difficult path from information to action. *American Psychologist*, **41**, 521-528.
- 野波 寛・杉浦淳吉・大沼 進・山川 肇・広瀬幸雄 (1997) 資源リサイクル行動の意思決定における多様なメディアの役割ーパス解析モデルを用いた検討ー 心理学研究, **68**, 264-271.
- Stern, P. C. (1999) Information, incentives, and proenvironmental consumer behavior. *Journal of Consumer Policy*, **22**, 461-478.

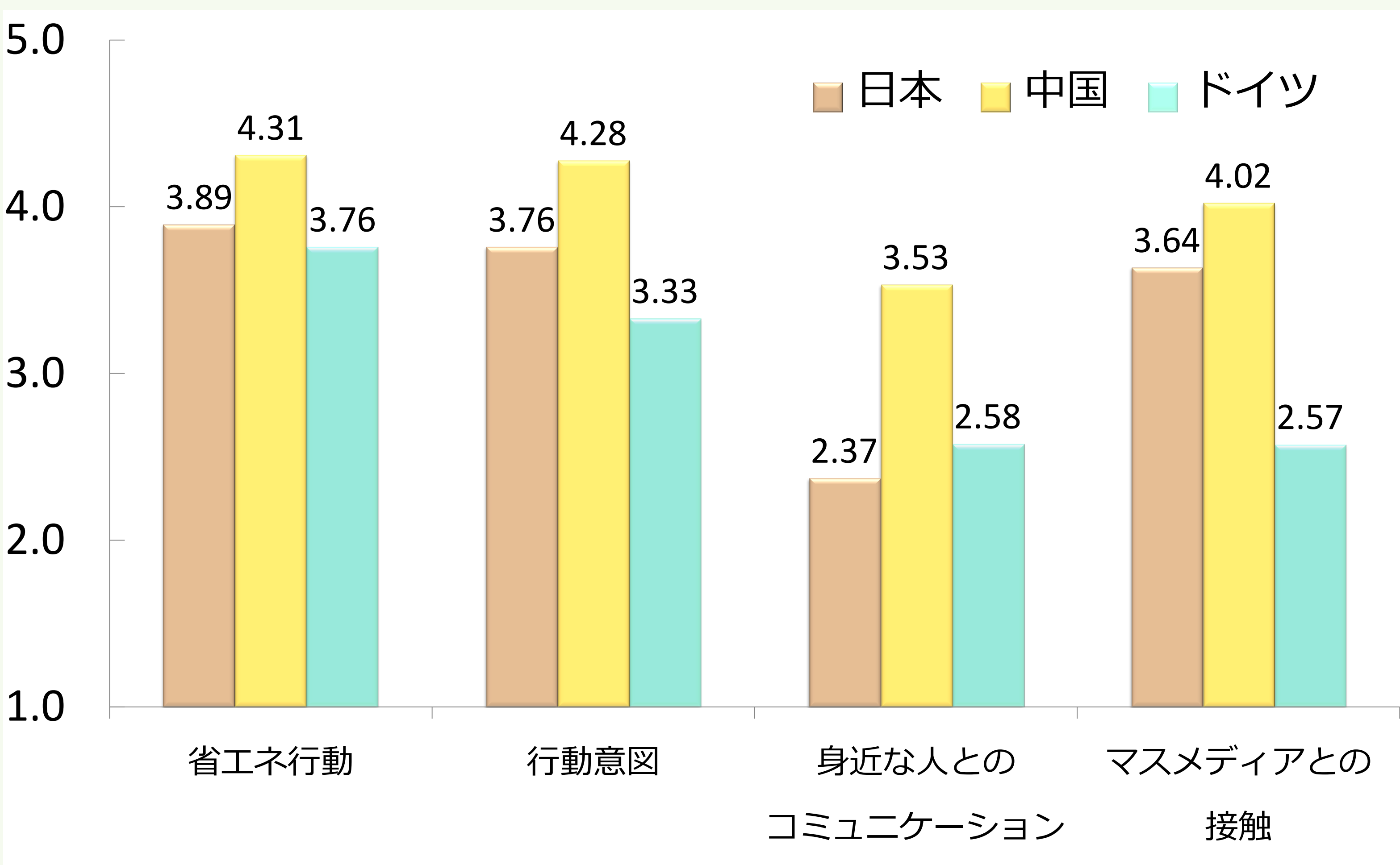


Figure 2 省エネ行動の実行度・コミュニケーション

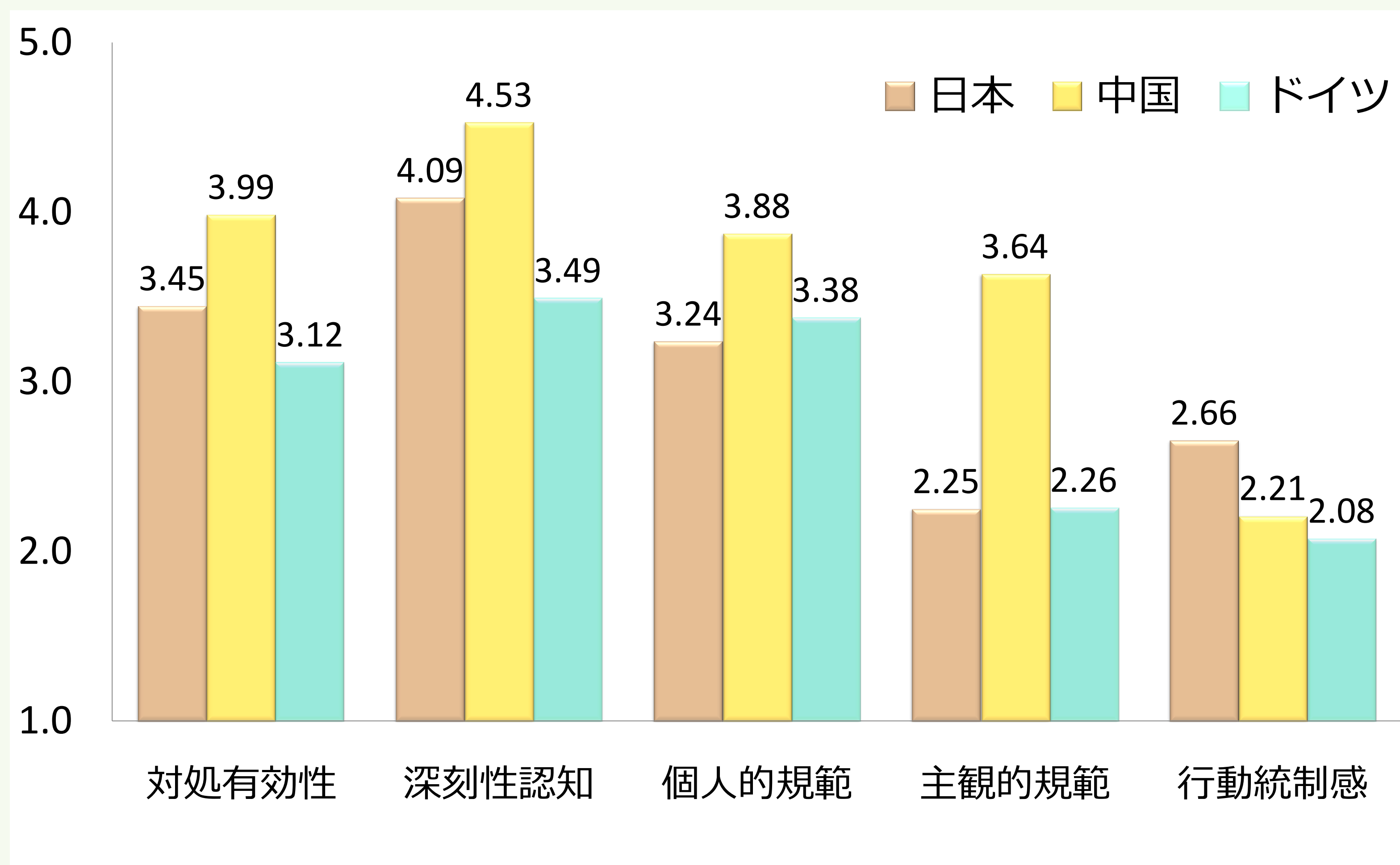


Figure 3 省エネ行動の認知変数